

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770801633		
法人名	社会福祉法人 隆生福祉会		
事業所名	グループホームゆめ長居公園		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪市東住吉区鷹合3-1-33		
自己評価作成日	令和3年4月20日	評価結果市町村受理日	令和3年6月1日

【事業所基本情報(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)】

https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2770801633-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	令和3年5月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染症対策を十分に取ながら、ご利用様にはできるだけ今まで通りの生活・活動が継続できるように配慮したケアを実施している。ボランティアや地域の集まりに参加することが難しくなり、どうしても地域との繋がりが薄れてしまうので、買い物や散歩の目的地に、馴染みのある商店街やスーパー、神社や公園に行くようにしている。食事の準備や片付け等も、一時は感染予防の観点から全面中止としたが、現在では必ず手指消毒をしてから職員と一緒に実施していただくようにしている。レクリエーションにおいては、ご利用者様の今までの生活の中から趣味であったり、特技であったりを活かせる内容にし、さらに、ご利用者様同士の交流がより深くなるような企画を立て、実施している。ご家族様の面会についても、LINE面会ができるように準備し、家族との繋がりが途切れてしまわないよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「お役立ちのこころ」を創業精神としている社会福祉法人が設立したグループホームです。1階には同法人のデイサービスセンターが併設され、2-3階のホームのリビングの窓一面から見える、緑いっぱいの長居公園の景色には四季折々の自然を感じることができます。「利用者・家族・地域・職員・法人の笑顔」の法人理念を掲げ、職員は理念を理解し、利用者の笑顔を中心とした支援を実践しています。新型コロナウイルスの影響で何かと制限のある毎日ですが、利用者の豊かな暮らしのために様々な工夫を凝らしています。イベントの企画の際には「利用者の好きな事・特技を発揮できる事」、また「誰かの役に立てた、誰かに喜ばれたと実感もてるもの」と、いつも心がけて利用者主体のイベントを実施しています。職員は介護福祉士等の有資格者が多く、認知症に関する質の高いケアで利用者の毎日を支えています。所長や職員が揃って「利用者一人ひとりのことを考えて仕事をしていることが、うちの自慢」と語るホームの暮らしは、利用者中心の会話や笑い声がリビングから溢れ、「ここにいたら心配なく過ごせる」との利用者の囁きが聞こえてくるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様、ご家族様、地域、職員、法人の5つの笑顔理念を掲げ、事務所や職員室に掲示し、理念の浸透に努めている。また、実践に繋げるよう、クレドを作成し、職員に配布して理念や運営方針等の意識付けをおこなっている。	「ご利用者の・ご家族様の・地域の・職員の・法人の笑顔」の「五つの笑顔」を法人理念として掲げ、職員は理念を理解し実践しています。理念の実践に繋げるようクレド(行動指針)を作成し、職員は携帯しています。また、毎月目標を掲げ、実践の評価を行っています。理念はフロア内やスタッフルームに掲示しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の集い等への参加は見合わせている。買い物や散歩などは積極的に実施し、ご利用者様の馴染みのある地域での活動を継続するように心掛けている。	理念のひとつに「地域の笑顔」を掲げ、地域との交流も積極的に行ってききましたが、現在はコロナ禍で取り組みは見合わせています。4月から認知症カフェ「ゆめカフェすまいる」をズームで再開し、充実への検討段階となっています。	今後、長年積み重ねた認知症ケアの知識や技術を、地域の認知症に対する啓発に活かす活動が期待されます。コロナ禍で地域との交流はできませんが、ゆめカフェスマイルの活動の充実も期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ「ゆめカフェすまいる」を、ZOOM開催にて再開予定をしている。活動内容は相談支援を中心にしていく予定となっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での出来事等を地域包括の方や町会長様・ご家族様へ報告し、そこから出た意見を、現場に落とし込めるよう、議事録を作成して、各ユニットに配布している。2020年度は全てを書面開催で開催。	利用者家族代表、町会長、地域包括支援センター職員の参加で会議を開催してきましたが、現在はコロナ禍で書面開催となっています。ホームの活動状況や取り組み等を報告し、意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。それぞれの委員から届いた意見は、会議や口頭で職員に伝え、毎日ケアに活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員に参加協力を頂いて頂き、施設の実情や取り組みを報告する中で、アドバイスを頂いている。	分からないことや困ったことがあれば、区の担当者に相談できる関係です。施設長は、大阪市老人施設連盟のグループホーム委員会の役員を務め、連携や情報交換を行っています。コロナ禍で、情報交換がより活発になりました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護又は、身体拘束・虐待に関する研修を施設内にて開催している。施設内には身体拘束廃止委員会を設置、毎月フロア会議で身体拘束について話し合う時間を設け、運営推進会議で報告を行っている。	「身体拘束ゼロ宣言」を行い、ポスターを掲示しています。身体拘束に関する研修を実施し、職員で人権を守るケアの確認を行っています。また、身体拘束廃止委員会を毎月開催し、身体拘束しないケアについては、家族にも理解を得ています。「高齢者虐待に向けた施設従事者のチェックリスト」で、身体拘束や虐待防止に関する職員の意識改革も実施しています。病院からつなぎ服で入居した利用者が、日々の工夫と家族の理解への働きかけでつなぎ服から普通の服になったケースがあります。センサーは利用者の行動を制限しない方法を考えた上で使用するなど身体拘束防止に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待のポスターはリーフレットを配布・掲示しています。また、年間研修計画の中に高齢者虐待についての研修を取り入れ、自己チェックをしながら高齢者虐待への意識を高めるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の外部研修に参加し学ぶ機会をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学をおこなっています。重要事項説明書をもって、十分な説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご家族様と良好な関係を築くように心がけ、来所時や電話連絡等でご意見を言える環境が作れている。また、運営推進会議で、ご家族様に参加して頂き、様々なご意見を聞かせて頂いている。	コロナ禍で現在は面会は制限していますが、これまでは家族の訪問も多く、職員は利用者の生活状況を報告しながら家族の要望も聞いてきました。ホームでの暮らしがわかる写真入りの「グループホームゆめ長居公園たより」を毎月発行し家族に送っています。面会が制限されている今は、手紙と写真を送ったり、ブログを更新したりして利用者の表情や暮らしの様子をより多く伝えられるように努めています。家族の厚い信頼から、感染予防対応の職員に激励の声が寄せられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開催し、作成した議事録を管理者が必ず目を通すようにしている。また、個別面談を年2回開催して、様々な意見を聴く機会を設けている。	コロナ禍の現在は、会議は書面で行っています。利用者に関する気づきやホーム全体に関する意見等、事前に各職員から聞き取り会議に反映させています。「うちの自慢は、利用者のことを考えてくれる職員」と、それぞれの頑張りを承認する所長の言葉と雰囲気は、職員の士気を高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤・非常勤に関係なく、介護技術を評価し法人独自の認定システムの構築をおこなっており、認定者には、手当として給与アップに繋げるようにしている。また、働きやすい職場環境の改善を常におこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チューター制度を取り入れ、OJTをベースに人材育成に力を入れている。また、法人研修でも、1年目2年目3年目研修、チーフ主任管理者研修、中途採用者研修、認知症研修等に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH委員会やGH連絡会など定期的に行われる会議や施設見学会に管理者や職員が参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様には、情報交換シートを活用し、日常生活様々な様子を職員が把握できるよう努めている。また、入居前面談で、家族様・本人様のニーズの聞き取りをおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にキーパーソン等に現在の不安や将来の不安を聴き出している。困りごとや悩み事が出た時点で、職員や管理者、ケアマネに相談して貰うよう声掛けをおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを作成する前に御家族様からご意見を聴き出し、プランに反映している。自施設では対応が難しいサービスは、外部サービスとして多職種連携をおこなっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全て行うのではなく、掃除・洗濯等ご利用者様に協力してもらうようにしている。認知症になっても出来る所を探し、支える支援を意識している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策を取り入れた面会方法等の工夫をして、ご家族様と共に入居者様をサポートしていけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き慣れた商店街のお店に通ったり、よく来られた長居公園へ散歩に出かけるように支援している。	コロナ禍で何かと制限がある毎日ですが、馴染みの商店街や公園に散歩に行っています。 イベントの企画の際には「利用者の好きな事・特技を発揮できる事」、また「誰かの役に立てた、誰かに喜ばれたと実感がもてるもの」と、いつも心がけて、利用者主体のイベントを実施しています。食事作りの場面でも、昔取った杵柄を発揮し、下ごしらえや味見等利用者が生き活きた表情で取り組む姿は日常の光景です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味が一緒のご利用者様同士で制作物をおこなうなど、関係構築の努力をしています。また、職員が間に入ることで、利用者様同士が関わり合う環境を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	音楽ボランティアやちぎり絵ボランティアなど、利用終了しても、施設との関係を継続し、介護支援や相談をしやすい関係を大切にしていたが、2020年度の感染症により、継続が困難になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望を聞き、気持ちにそえるよう努めている。ご自身で訴えができないご利用者様には、ご家族様から聞き出す様にしている。	利用者一人ひとりの理解を深める傾聴の研修を重ね、利用者の長い人生に思いを馳せる関わりを大切にしています。コロナ禍で大きなイベントは中止していますが、利用者から聞き取った思いを活かして、「写真立てを作って奥様にプレゼント」「馴染みの商店街に行く」「ちらし寿司を一緒に作る」等、利用者の意向を尊重した個別のミニ企画をたて実施しています。食後のコーヒーを部屋で楽しみたい利用者には部屋へ運ぶなど、利用者一人ひとりの過ごし方を大切にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族様に趣味嗜好を聞いて、現場で反映するようにしている。生活環境の変化による影響も考えられるため、入居1ヵ月間は重点的に様子を観察し、日々の申し送りやフロア会議で検討するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録の中に活動内容を記載し、日々の申し送りや毎月のフロア会議で、様子の変化やADL・IADLの状況を話し合うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が、フロア会議に出席し、ご家族様や職員の意見、ご利用者様に関わる関係者から意見を聴き、最後に管理者に閲覧し計画書の作成をおこなっている。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。毎月のフロア会議では、利用者一人ひとりのカンファレンスを実施しています。計画作成担当者は、介護計画更新時には、事前に家族や職員に意見を聞いています。また、計画作成にあたっては「不安なく過ごしてもらおう」「できることを継続する工夫」を心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフト「絆」を活用し、日々のケアやご利用者様の御様子を記録している。職員間の申し送りには別途、連絡ノートを作成し、重要ポイントを記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内でニーズが満たせない場合は、外部サービスを活用している。柔軟にサービスを提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アロママッサージや訪問理美容など、地域の資源を活用し、生活の質を高める支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の委託医を基本に、地域の医院に都度、受診するようにしている。また、ご家族様・本人様希望の診療科に定期的を受診している。	毎月2回協力医の往診・毎週1回訪問看護を受け24時間オンコールの医療連携を整えています。定期的に歯科の訪問診療も受けられますが、本人の希望や健康状態を見て外部受診する利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康チェックをおこなっている。また、併設のデイサービスの看護師とも、緊急時は連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時看護サマリーを病院側に提供し、入院しても円滑な看護が出来る協力体制を作っている。退院時カンファにも参加し、退院後の生活を安心して送られるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の方針の説明をおこなっている。状態が悪化した時点で、ご家族様に今後の方向性を相談し、ご家族様の希望に添えるよう努めている。	現在までホームでの看取りはありませんが、契約時には、重度化した場合の方針の説明を行っています。ホームでできる事を十分に説明しながら、家族の希望に沿えるように支援に努めています。ビデオ研修では、精神的ケアについて学習し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習を施設内で実施している。また、急変時や事故発生時は、管理者に連絡する体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施。また、災害時相互応援協定での活動を行い、同地区内の他施設との協力・連携がとれるようにしている。	火災訓練・水害訓練など地域の状況に応じて実施しています。施設連絡網はウェブを更新し迅速に、安全、安心の確保につなげています。食料備蓄品は、普段から使用している水など定期的にチェックして備えています。消火器の設置場所が床面でわかりにくいことから、壁面上部に消火器のイラストを貼り、目につきやすい工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に、マナー研修を実施。第三者から聴いて、気持ちのよい言葉遣いが出来るよう、徹底している。	入職時にマナー研修を実施しています。日常のケアの中で、家族が聞いて不快感のない言葉遣いに気を付けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の時間や曜日の希望があれば、個別対応をしている。食事も外食したい場合は、職員配置に問題ない範囲で個別対応をしたり、家族様に協力をさせていただいている。併せて、必ず感染症対策を行った上で実施し、混雑を避けるために外食時間や場所等も考慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間を設ける事無く、ご利用者様に合わせたスケジュールにしている。ご利用者様とコミュニケーションを図り、1人1人に合った、ペースで過ごして貰うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の買い物等に付き添い、ご利用者様が好みの服を選べるようにしている。また、毎日の身だしなみについても、起床時に必ず支援するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、手伝って頂けるご利用者様に声をかけ、負担にならないよう配慮をしながら、一緒に行っている。	食事の準備や片付けなど本人の負担にならないように一緒にしています。「本人の特技を活かして、本人だけが満足するのではなく、人のために役立っていることを実感してもらう」ことを大切に支援しています。食器洗いを済ませた利用者が満足そうに自分の部屋の表情を見ることが出来ます。土曜日など調理をする日には、カレーライスやちらし寿司など利用者の好きなメニューで楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立した、給食会社による食事を提供している。摂取量や水分量を記録に残し、最低限の水分摂取の把握に努めている。また、必要に応じて、個別で栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を実施。義歯の方は夜間、消毒の支援を行っている。訪問歯科による口腔内の洗浄・指導もおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方のみ、おむつ・パットの使用を行っている。不必要な方には使用しないが、体調の変化に応じてご家族様と相談し、その都度対応している。	排泄パターンに応じた個別の支援をしています。入居時には、自立の排泄が困難な利用者が、トイレで排泄できるようになった事例もあり、羞恥心や不安への配慮をした言葉かけや誘導等の対応を徹底しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の活動の中に、運動を取り入れ、腸の活性を促している。朝食にヨーグルトを摂取して貰ったり、水分摂取量にも注意して促したりなど、食事面でも工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝から夕方まで幅広い時間帯で入浴して貰うようにしている。週2日の入浴を基本に、年齢や体調に合わせ、その都度変更している。	予定を組み、午前中にタイミングを図り、個浴で実施していますが、年齢や体調に応じてその都度個々に沿った対応に努めています。本人の好みのシャンプーやリンスなど使用している利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない方には、眠るまで傍につき添ったり、温かい飲み物を提供したりなど、個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋をケース記録ファイルに保管し、職員が確認できるようにしている。また、服薬セット時・服薬時にはダブルチェックを行い、処方ミスや服薬ミスが無いよう、徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵画や読書、裁縫、料理など、趣味を継続できるよう、職員がサポートしながら実施できる工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて外出時間、場所を変更し、外出機会を増やせるよう努力しています。また、ご利用者様の馴染みのある場所への外出も心掛け、実施している。	ホーム前の長居公園の散歩は日常的なものになっています。公園の緑から感じた事を俳句にして楽しみ、また、お茶会では季節を味わいました。4月は、いなり寿司を作り長居公園にピクニックに行き、春の日差しを満喫しました。ベランダで日傘をさして日向ぼっこをすることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に応じて、お金を持参して頂いているが、基本は施設立替にて、好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って頂いたり、ご希望時にフロアの電話を使っていたくようにしている。また、手紙や年賀状を書く時は、職員がサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	長居公園が見渡せるよう、ガラスの部分を広くとっている。リビングのテーブルやソファを居心地良く過ごして貰うよう、配置変更したり工夫をしています。ピアノを置いて、職員やご利用様がいつでも演奏できるように、考慮している。	リビングの大きな窓からは、向かいの緑あふれる長居公園が一望できます。ベランダの、植木鉢には、季節の花々が咲いています。リビングにはダイニングテーブルやソファが工夫して配置され、それぞれにゆったりとした時間を過ごしています。職員や利用者が演奏できるピアノも設置され、廊下には利用者が描いた絵画を飾っています。クレド(行動指針)の中の8S(整理・整頓・清潔・清掃・安全・節約・躄・しぐさ)運動は、居心地のよい環境作りに活かされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士でお話しが出来るよう、席順や家具の配置を常に検討し、対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、キーパーソンの方に、使い慣れた家具があれば、持ってきて頂くように声掛けをしている。絵画が好きな方は、居室に飾られている。	入居時に家族と相談して、居室には使い慣れた椅子や家具等を持ち込んでいます。それぞれの部屋の入り口には、表札を掲げ、折り紙で作成したくす玉を飾り、部屋とトイレのわかりやすい目印となるような工夫もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など、分かりやすく掲示するなどの工夫をしている。また、車椅子自走の方でも、不便なく移動できるよう、共有スペースを広くとる配慮をしている。		